

2010 年度台湾人日本語教師本邦研修参加者報告会 (兼、第 3 回中等教育機関日本語教師研修会) : 報告

今回は、今年で 13 回目を迎え 7 月 7 日から 25 日にかけて実施された「2010 年度台湾人日本語教師本邦研修」に参加された 10 名の先生方をお招きし、第 3 回中等教育機関日本語教師研修会を兼ねる形で報告会を開催しました。本邦研修に参加できなかった先生方だけでなく、将来の参加を考えている先生方や報告テーマに関心のある先生方に、参加者が何を学んできたかを報告し、研修内容を共有していただくことを目的として、本邦研修で学んだ多くの科目の中から主要 5 科目について、特に台湾人日本語教師にとって有益で役に立つと思われるポイントをまとめ、各科目 30 分ずつのダイジェスト版でご報告いただきました。

日 時 : (台北会場) 2010 年 8 月 21 日(土) 14 : 00~17 : 00
(高雄会場) 2010 年 8 月 22 日(日) 14 : 00~17 : 00

テ ー マ : 1. 文法指導
2. 読解指導
3. 教室活動を考える
4. 口頭表現・作文表現の試験と評価
5. 通訳・翻訳の技法と訓練

講 師 : 吳承和氏 (市立中山女子高級中学) [台北会場で 1 を担当]
林欣潔氏 (私立明道高級中学) [台北会場で 2 を担当]
陳冠敏氏 (市立南湖高級中学) [台北会場で 3 を担当]
鍾韶瑛氏 (私立稻江高級商業職業学校) [台北会場で 4 を担当]
王妍心氏 (私立金甌女子高級中学) [台北会場で 5 を担当]
吳錦芬氏 (国立鳳山高級商工職業学校) [高雄会場で 1 を担当]
顏美伶氏 (国立台東高級中学) [高雄会場で 2 を担当]
許惠端氏 (市立瑞祥高級中学) [高雄会場で 3 を担当]
林亭瑜氏 (私立樹人醫護管理專科學校) [高雄会場で 4 を担当]
楊進興氏 (国立馬公高級中学) [高雄会場で 5 を担当]

参 加 者 : 台湾の日本語教育関係者 (台北) 27 名 (高雄) 25 名

まず、テーマ 1 の「文法指導 (市川保子先生による講義)」については、「「は」と「が」の使い分け」、「条件文の「と・ば・たら・なら」を中心としたものであったことが報告されました。「「は」と「が」の使い分け」については、「は」と「が」それぞれの意味用法が 7 つまたは 8 つのポイントに分けて詳しく説明されました。練習問題も用意され、理解の強化が図られていました。「条件文の「と・ば・たら・なら」については、前文と後文の時間的前後関係、後文末に意志表現がとれるかどうか、そして、伝達機能の 3 つの観点から意味用法の異同が詳しく説明されました。

次に、テーマ2の「読解指導（笠原ゆう子先生による講義）」については、1. クラスの中での読解、2. 母語での読解、3. 読解のプロセスとストラテジー、4. 第二言語・外国語での読解、5. クラスでの読解のゴール・目的、6. 教師の役割、7. テキスト選択、8. 発問・タスク・活動、9. 教室活動の構成、10. 読解授業の構成、の10項目に分けて、それぞれの要点が順に説明されました。実際の読解授業用の教材例も2つ紹介され、読解授業の構成（読解前の活動～読解作業～読解後の活動）と進め方がわかりやすく示されました。

テーマ3の「教室活動を考える（荒川洋平先生による講義）」については、1. 教室活動の定義と目的、2. 実践・批判・内省、3. 自己表現と異文化理解、4. 動機付けの諸点、の4つの観点からこれまでの教室活動の理論と実際が概観され、様々な教材・活動例と共により良い教室活動について考え、そこへの道筋が示されたことが報告されました。講義で使われた多くの教材・活動例の一部も紹介され、オーセンティックな教材の利用例として駅のアナウンス音声を使った活動例などもあり、利用・作成時の留意点と共に紹介されました。

テーマ4の「口頭表現・作文表現の試験と評価（河原崎幹夫先生による講義）」については、まず両者の共通点を概観した後、口頭表現試験と評価、作文表現試験と評価のそれぞれについて詳説されたことが報告されました。口頭表現試験と評価では、1. 口頭表現試験の目的、2. 口頭表現試験の観察項目、3. ACTFL-OPI、4. 口頭表現試験の問題点、について講義が展開され、口頭表現評価表の例が示されました。作文表現試験と評価では、1. 作文表現に必要な能力、2. 作文表現の到達目標、3. 作文表現の評価、について講義が展開され、作文採点表の例が示されました。そして、客観的な評価基準に従って見ていけば、新米教師やノンネイティブ教師でも公正な評価が可能であると示されたことが報告されました。

テーマ5の「通訳・翻訳の技法と訓練」では、1. 通訳概論（塚本慶一先生による講義）、2. 通訳者養成メソッドの教育現場への応用（塚本尋先生による講義）、3. 通訳技法と訓練（宮首弘子先生による講義）、4. 翻訳技法と訓練（醍醐美和子先生による講義）の4つの講義について報告されました。1. では、通訳作業のプロセス、通訳の種類と形態、通訳技能学習のキーポイント、通訳の将来性などが話され、2. では中国語通訳法の授業例が1年間の流れを含めて詳しく紹介され、3. では語学教育における通訳トレーニング・メソッドの活用とその効果、4. では日本語教育における翻訳の活用法について話されたことが報告されました。

以上のように、今回は、少ない時間に多くの項目を扱った大変密度の濃い報告会となりましたが、終了後のアンケートでは「内容が豊富で、いろいろ学びました」、「先生方が習得したものを消化、整理して発表して下さったので、より理解しやすかった」、「大変役に立つ発表だった」「大変勉強になった」などの好意的な感想が多く寄せられました。

吳承和先生



林欣潔先生



陳冠敏先生



鍾韶瑛先生



王妍心先生



台北会場の様子

